

平成10年12月24日

科学技術庁／宇宙開発事業団
文部省／文部省宇宙科学研究所
通商産業省／新エネルギー・産業技術総合開発機構

無人宇宙実験・観測フリーフライヤ（SFU）プロジェクトの終了について

SFUは、汎用性、再利用性を基本コンセプトとして、将来の再利用型宇宙機の開発に関する知見を得るために開発された無人宇宙実験システムです。SFUは、平成7年3月にH-IIロケットにより打ち上げられ、10ヶ月間宇宙に滞在し、各種の実験を実施した後、平成8年1月、NASAスペースシャトルで回収されました。

SFUプロジェクトは、科学技術庁／宇宙開発事業団、文部省／文部省宇宙科学研究所及び通商産業省／新エネルギー・産業技術総合開発機構／（財）無人宇宙実験システム研究開発機構の共同開発によるもので、軌道上において赤外線望遠鏡による天文観測、新素材関係の実験、国際宇宙ステーション実験モジュール暴露部の軌道上実証など11項目の理工学実験・観測を実施し、多くの優れた成果を上げることができました。

上記機関は、無人宇宙実験・観測フリーフライヤ（SFU）の再利用について予算面、技術面、回収スケジュール面から協議した結果、再打上げ・回収のための費用が過大なこと、国際宇宙ステーションの建設・運用に伴いスペースシャトルの利用予約が困難であることから、再利用プロジェクトは行わないこととなりました。

現在、宇宙より回収されたSFUは、分解され、各機関または企業に保管されています。これらは各機関の責任において、将来のミッション等への活用を図ることと致しました。